

最近の消費・輸入動向等について

《 目 次 》

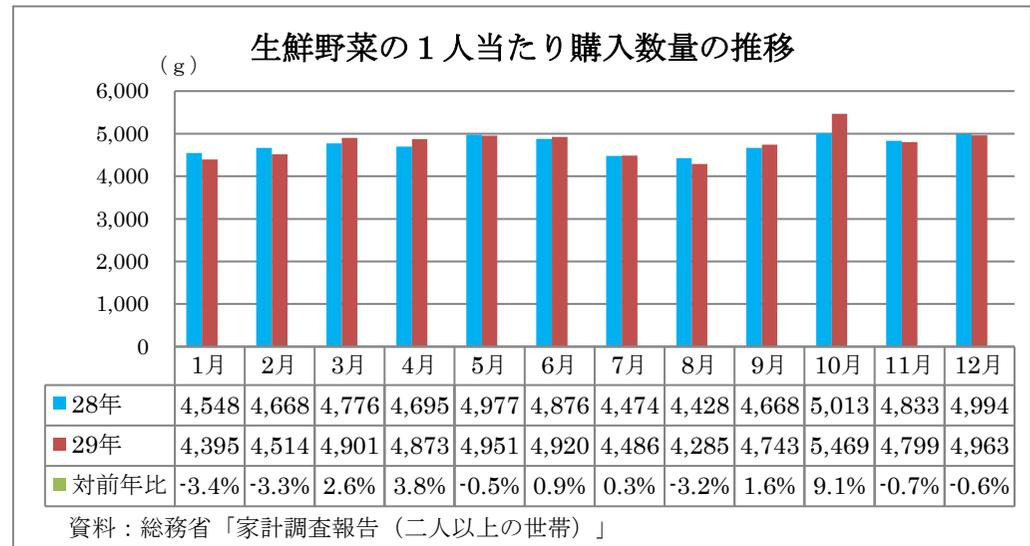
1. 家計における購入、支出動向等
 - (1) 生鮮野菜の1人当たり月別購入 P. 1～4
 - (2) 野菜の摂取量 P. 5
2. 小売の販売動向
 - (1) チェーンストア P. 6
 - (2) スーパーマーケット P. 7
 - (3) 品目別小売・卸売価格 P. 8～10
3. 輸入の動向 P. 11～13
4. 平成28年産春野菜主要品目の主産県別生産・出荷等 P. 14～15
5. 今後の気象予報 P. 16～17

1. 家計における購入、支出動向等

(1) 生鮮野菜の1人当たり月別購入

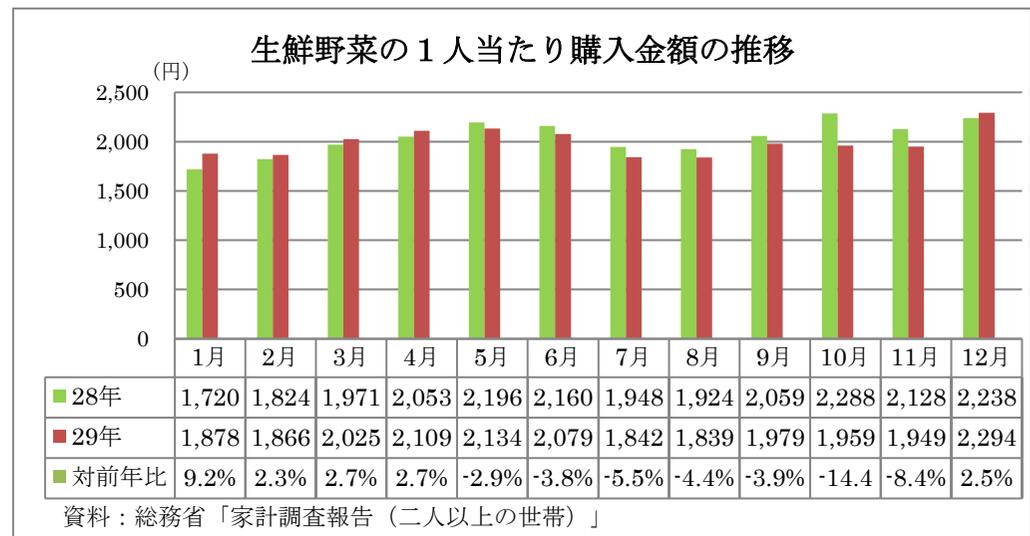
<購入数量>

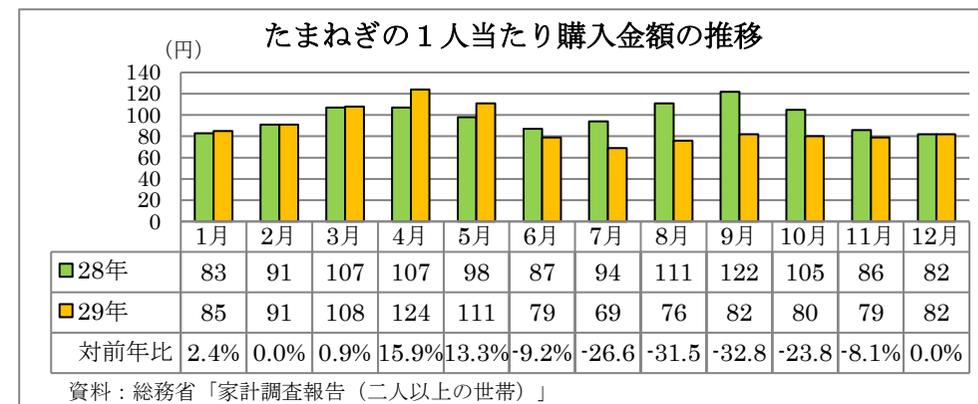
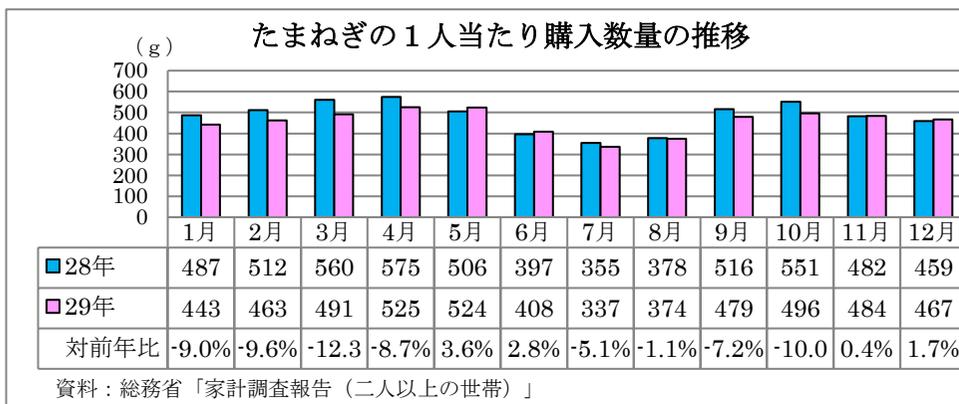
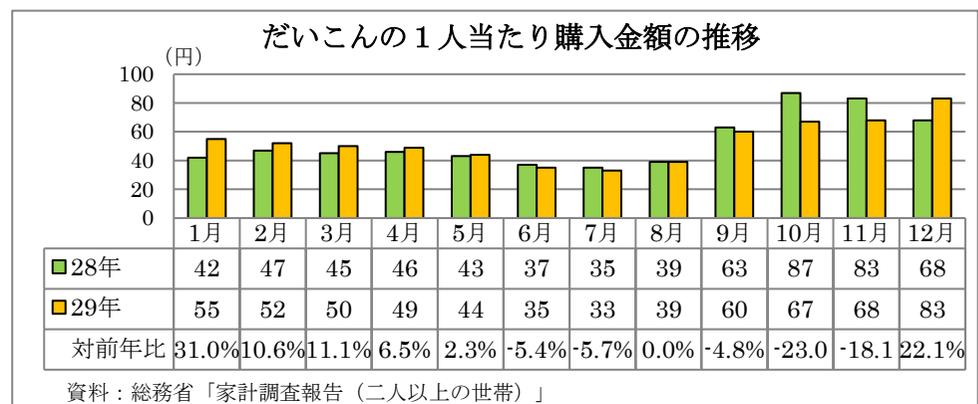
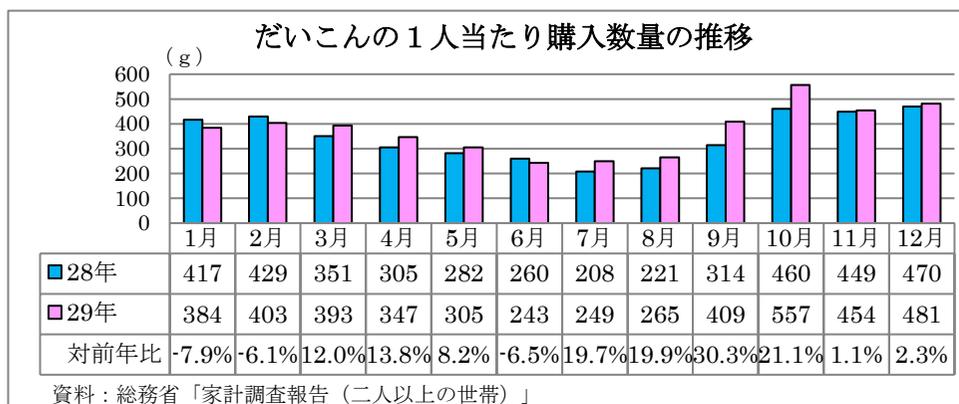
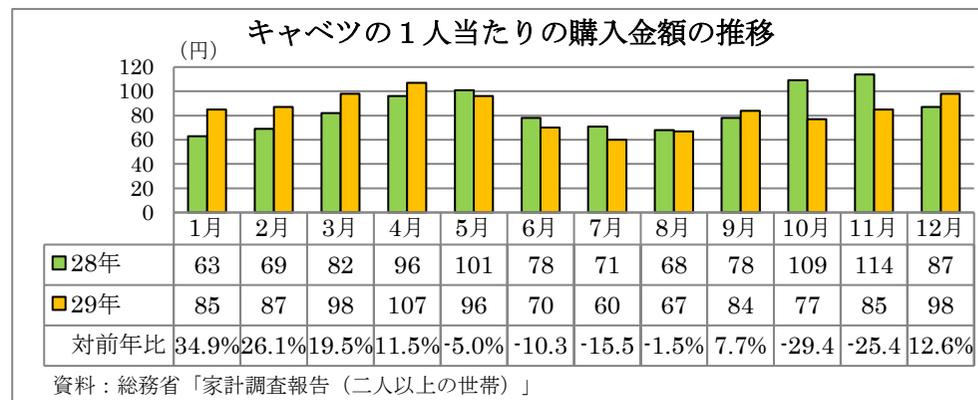
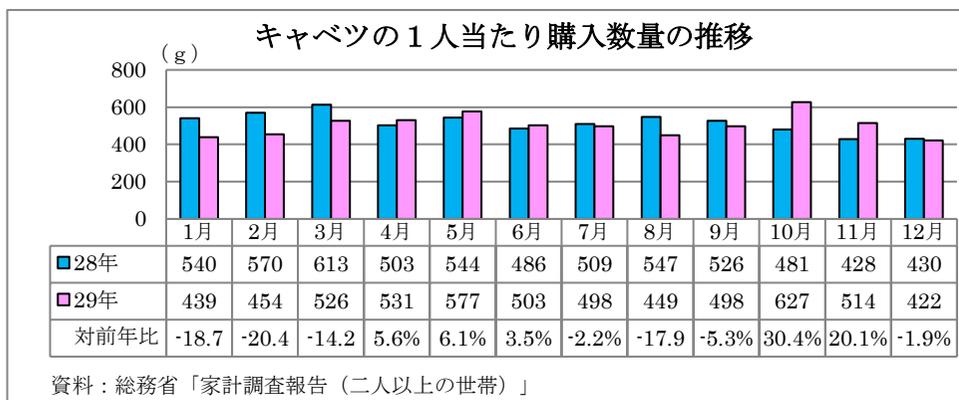
- 生鮮野菜の1人当たりの購入数量は、1月から2月は、前年秋の長雨・日照不足等の影響により出荷数量が減少し高値となったことから、前年を下回った。
- 3月及び4月は、キャベツ等の価格が低値及び干ばつの影響で高値となったものの、3月は気温の低下により鍋物需要が高まったこと、4月は気温の上昇によりサラダ関連商材の需要が高まったこと等から、前年を上回った。
- 5月から7月は、概ね前年並みで推移した。
- 8月は、東日本の太平洋側を中心に長雨が続いたことから、購入数量が減少して前年を下回った。
- 9月及び10月は、だいこん等の生育が順調で出荷数量が増加し安値となったことから、前年を上回った。
- 11月及び12月は、概ね前年並みで推移した。

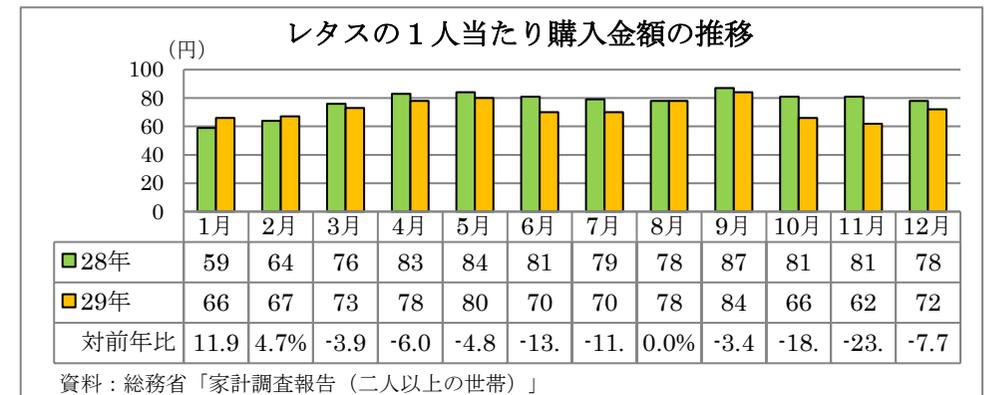
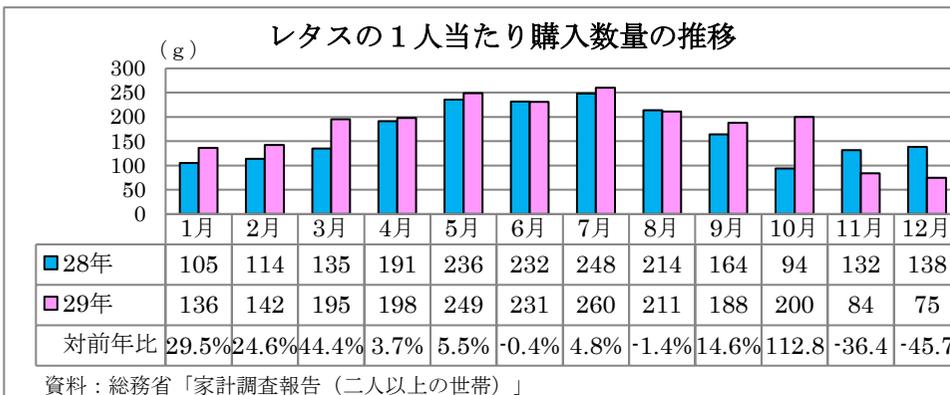
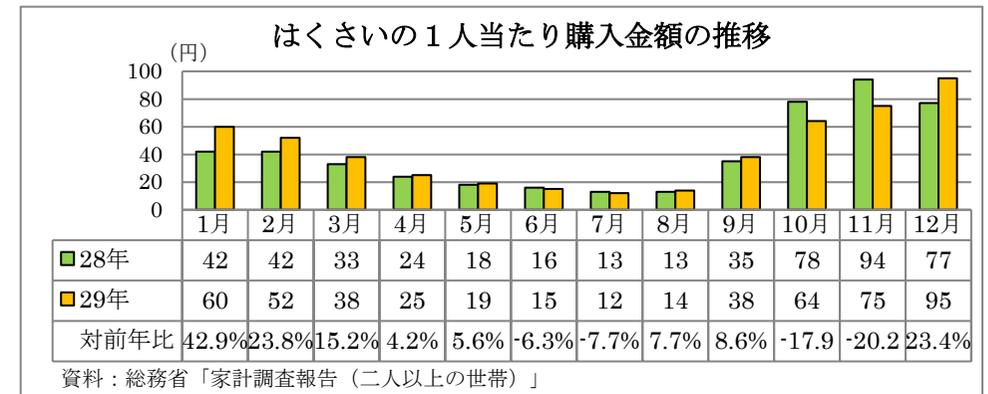
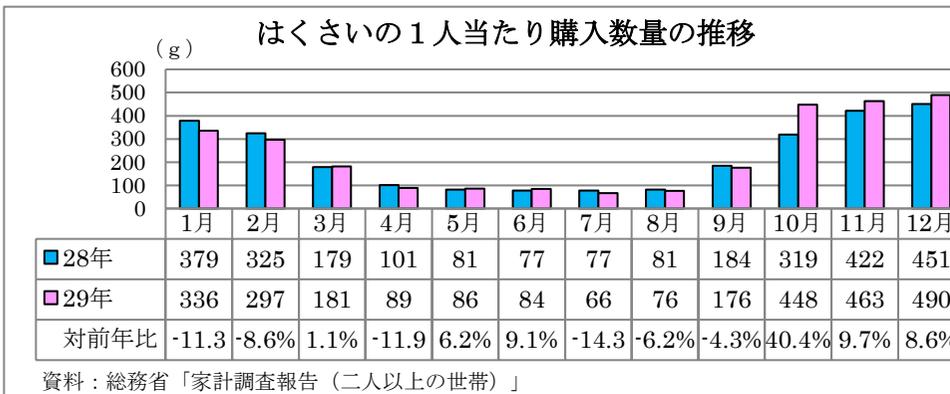
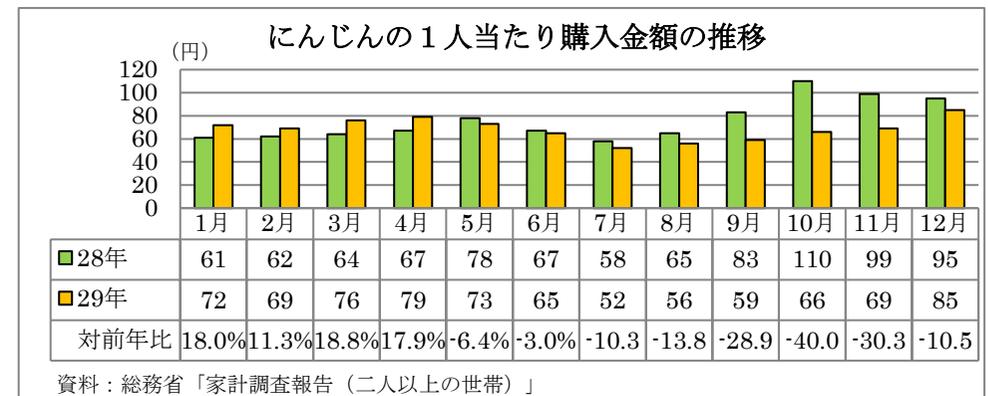
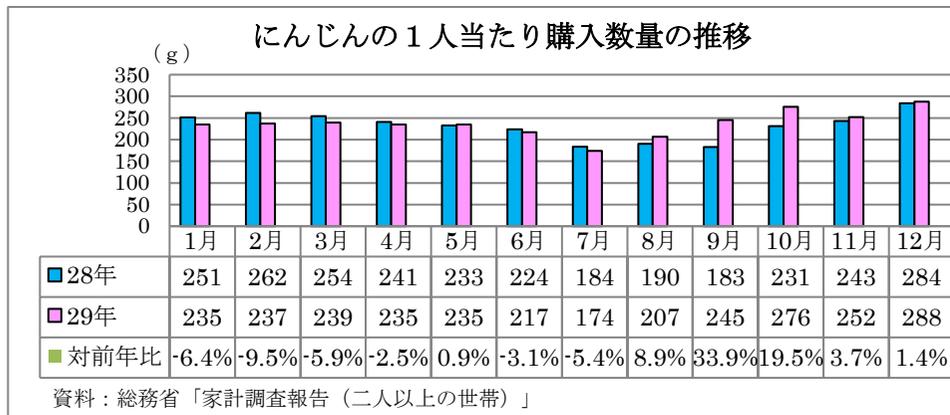


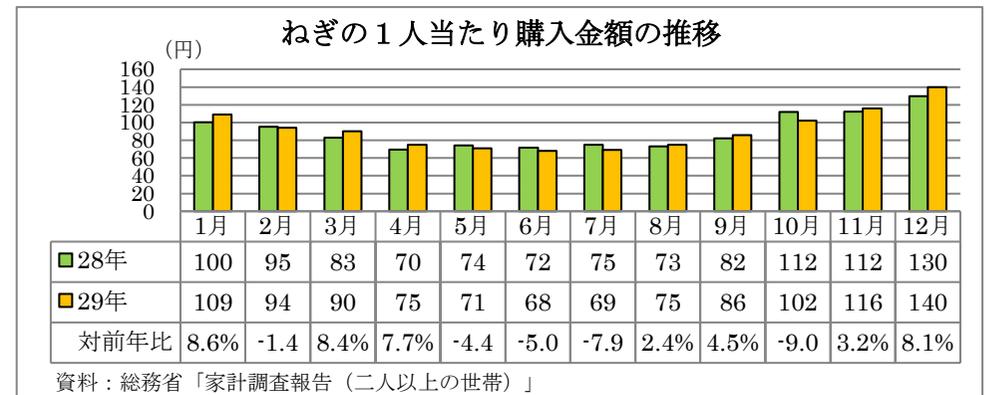
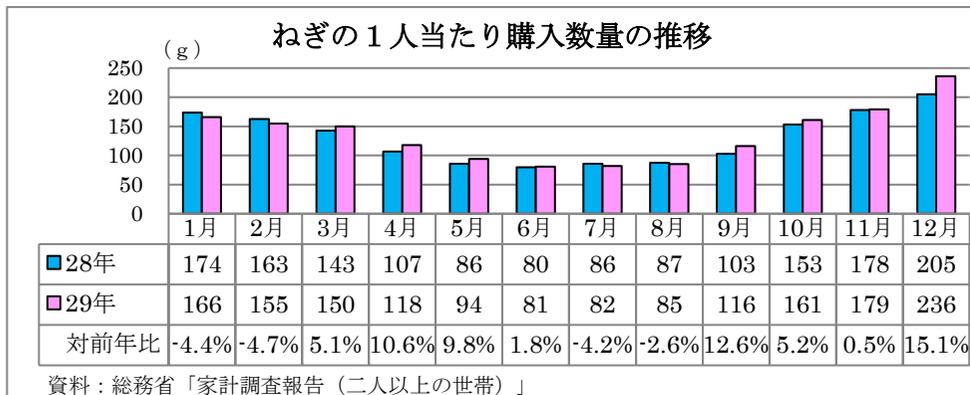
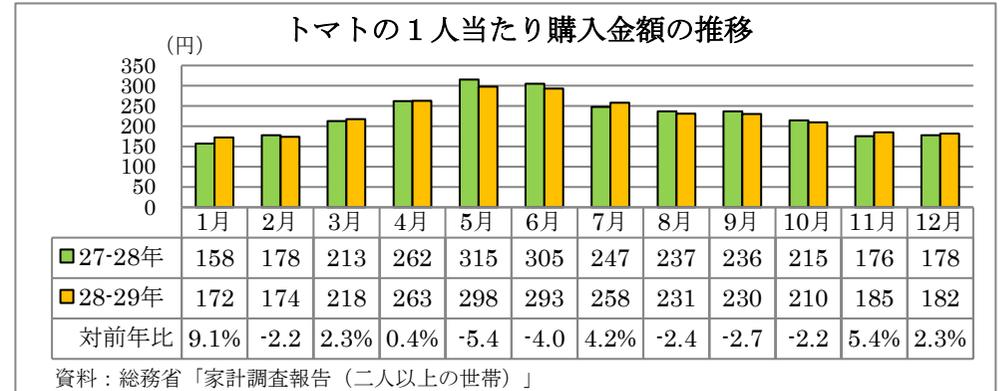
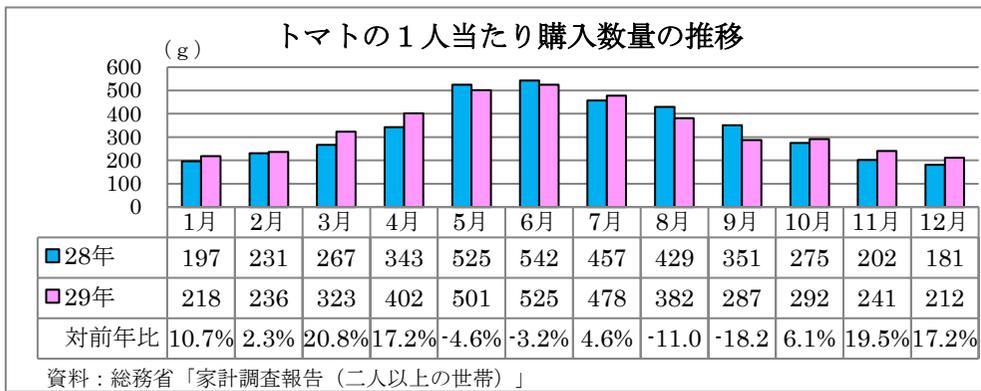
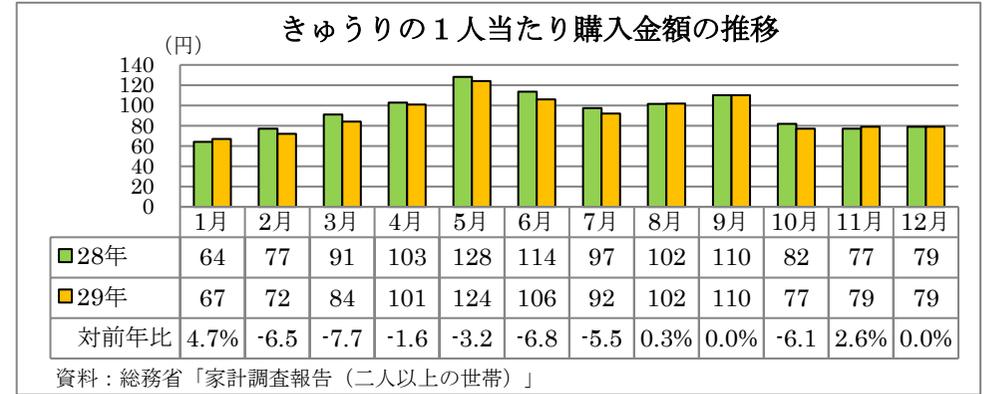
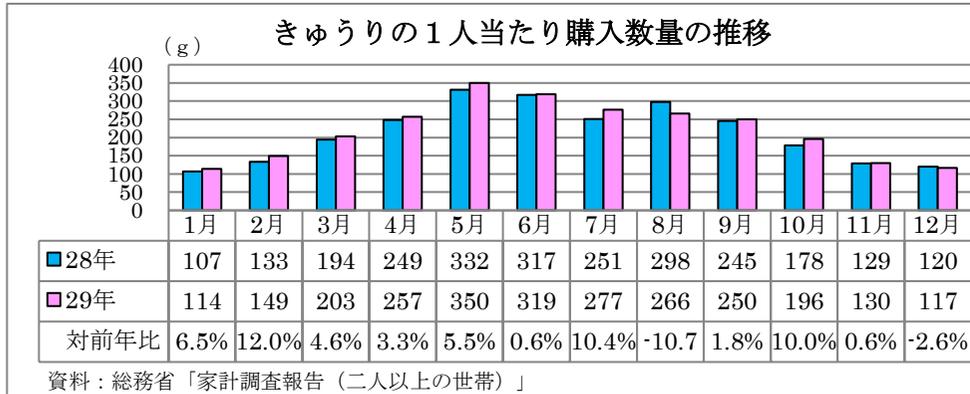
<購入金額>

- 生鮮野菜の1人当たりの購入金額は、1月～4月は、主要野菜の価格が前年秋の長雨・日照不足等の影響による品薄感から総じて高値となったことから、前年を上回った。
- 5月から7月は、天候にも恵まれて、キャベツ、レタス等の出荷数量が増加して安値となったことから、前年を下回った。
- 8月は、東日本の太平洋側を中心に長雨が続いたことから、購入金額が減少して前年を下回った。
- 9月から11月は、だいこん等の生育が順調で出荷数量が増加して安値となったことから、前年を下回った。
- 12月は、10月の長雨及び台風の影響により出荷数量が減少し高値となったことから、前年を上回った。



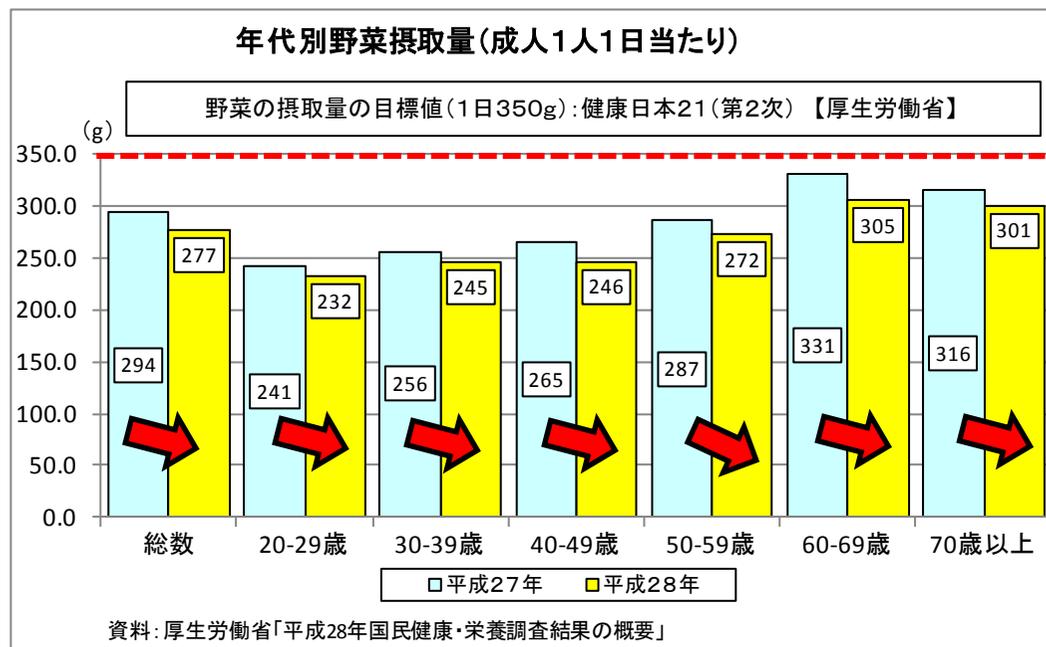




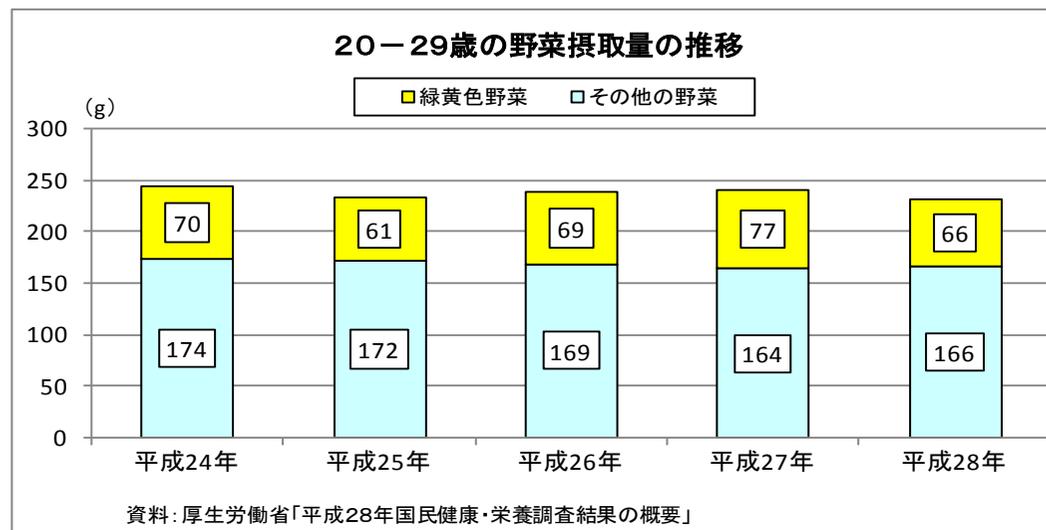


(2) 野菜の摂取量

- 平成28年の成人1人1日当たりの野菜摂取量は、全ての年代において健康日本21（第2次）で示された野菜の摂取量の目標値（1日350g）を下回っている中で、前年に比べて減少し、総数は277グラム（前年比94%）となった。これは、8月の台風や9月以降の長雨・日照不足等により野菜価格が高騰したことによる影響と考えられる。
また、これまでと同様に20代が一番低い水準となり、世代が高くなるに従って摂取量が増える傾向が見られた。



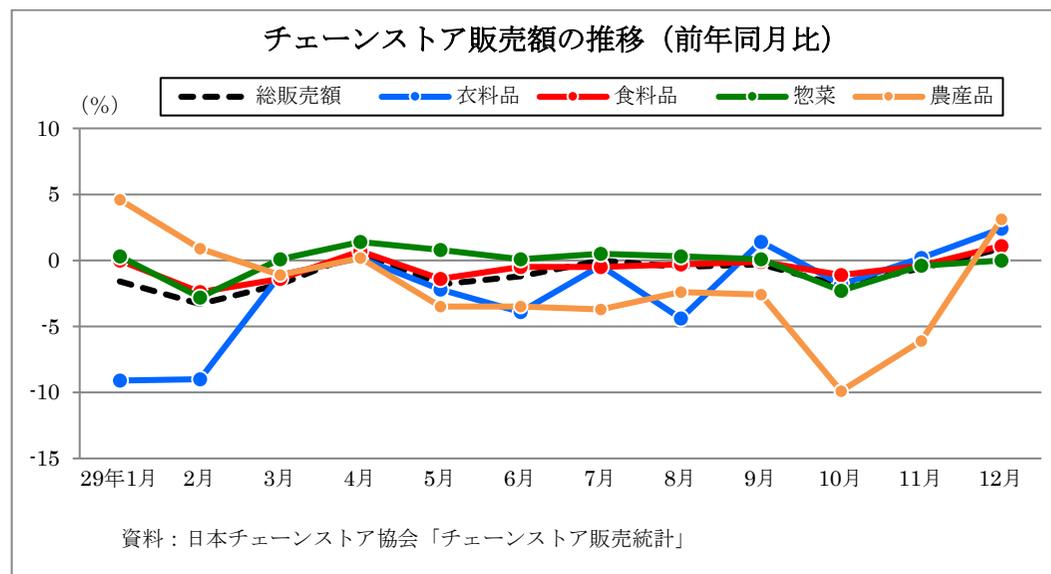
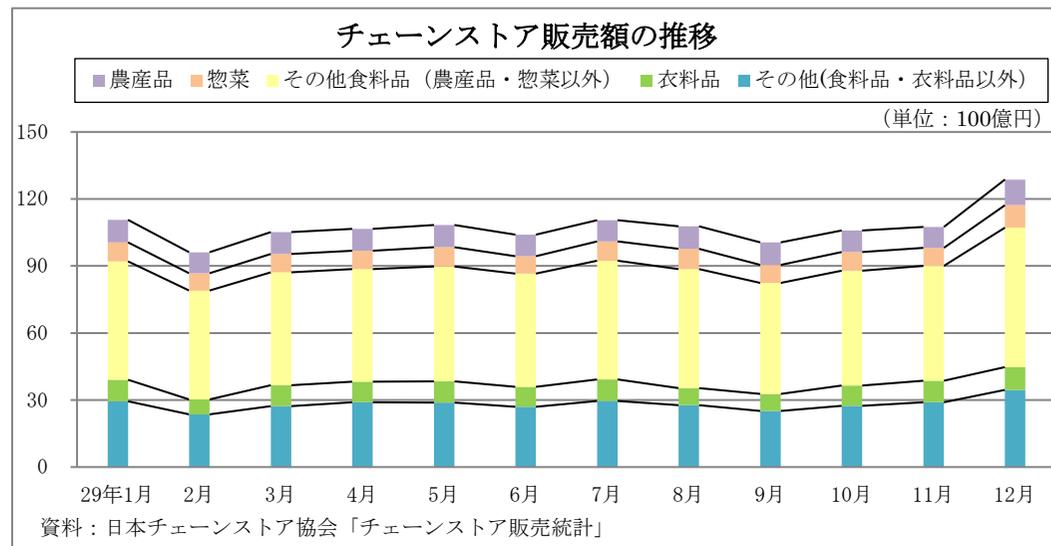
- 野菜摂取量が最も少ない20代の過去5年間の推移を見ると、ほぼ横ばいとなっている。緑黄色野菜とその他の野菜別に見ると、その他の野菜が増加（前年比101%）したものの、緑黄色野菜が減少（前年比86%）して、全体では減少（前年比96%）となった。



2. 小売の販売動向（平成29年1月～平成29年12月）

（1）チェーンストア

- 総販売額の最高額は12月の1兆2,870億円、最低額は2月の9,616億円であった。
前年同月の動向は、1月から3月、6月は衣料品の販売の不調、5月及び10月は農産品の相場安の影響により、それぞれ前年を下回った。
- 農産品の販売額の最高額は12月の1,149億円、最低額は2月の940億円であった。
前年同月の動向は、1月は前年秋の長雨・日照不足等の影響による相場高で前年を上回った。
5月から7月にかけてはキャベツ等の相場安の影響で前年を下回った。8月は東日本の太平洋側を中心に長雨が続いたことから販売額が低調となり前年を下回った。9月から11月はだいこん等の相場安の影響で前年を下回った。12月は長雨・台風による相場高で前年を上回った。
- 惣菜の最高額は12月の1,004億円、最低額は2月の774億円であった。
前年同月の動向は、高齢化や個食化、時短ニーズの高まりで消費者に支持され、2月、10月、11月を除いて前年を上回った。2月は前年が閏年であり、10月は長雨・台風の影響による来店客数の減少、11月は販売がやや低調となって、それぞれ前年を下回った。



(2) スーパーマーケット（平成29年1～平成29年12月）

○ 総販売額の最高額は12月の1兆496億円、最低額は2月の8,092億円であった。

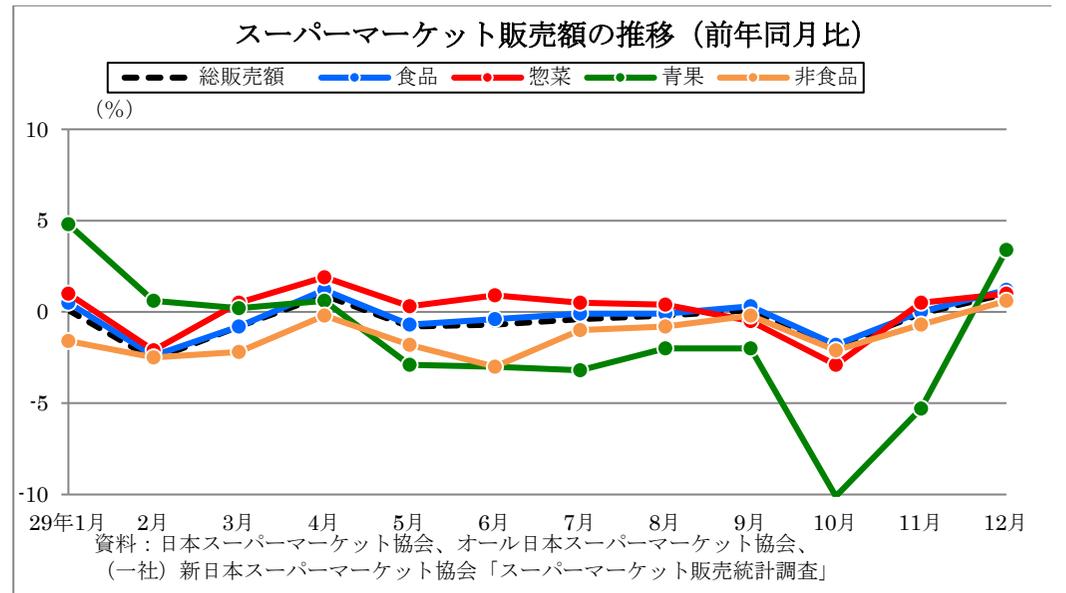
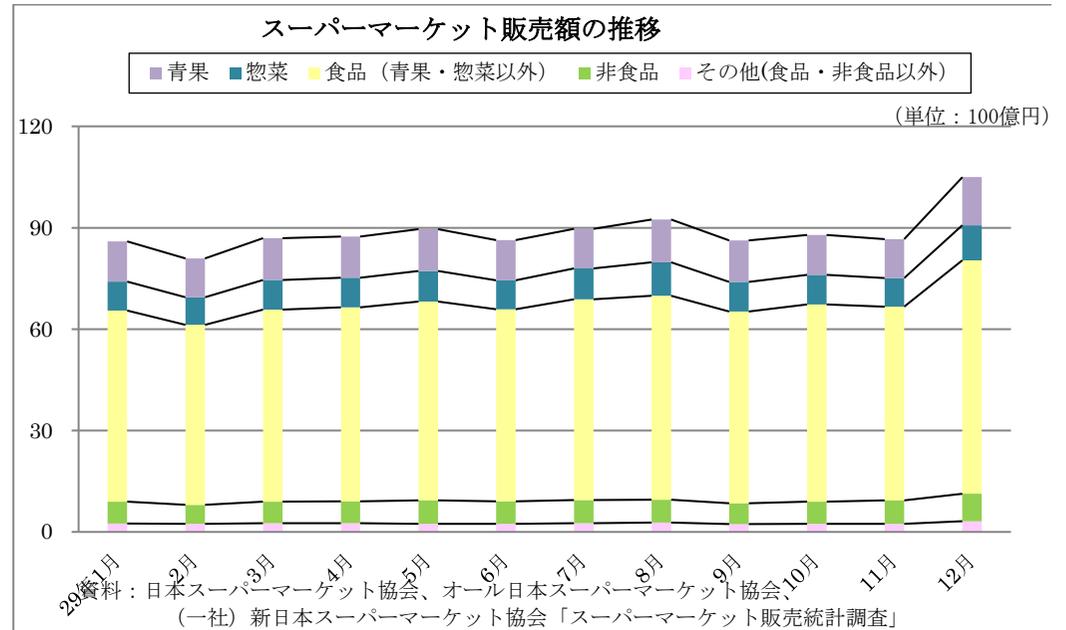
前年同月比の動向は、2月は閏年であった前年を下回り、10月はだいこん等が相場安であった影響を受けて前年を下回り、12月は長雨・台風の影響により相場高となり前年を上回った。

○ 青果の最高額は12月の937億円、最低額は2月の729億円であった。

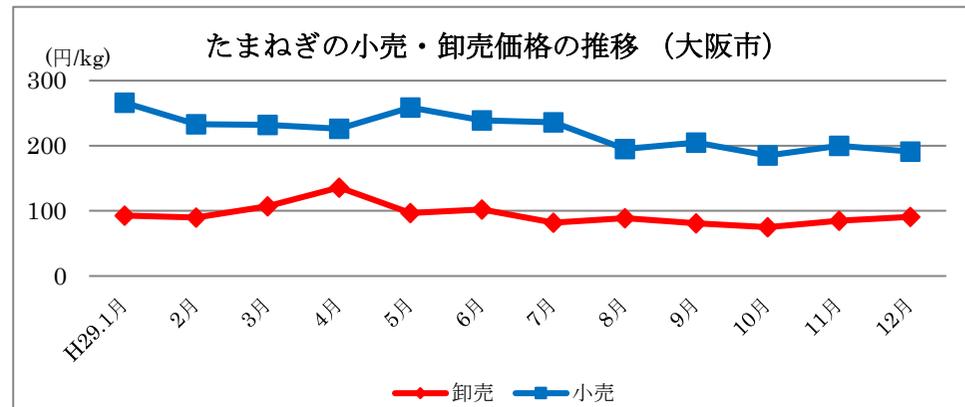
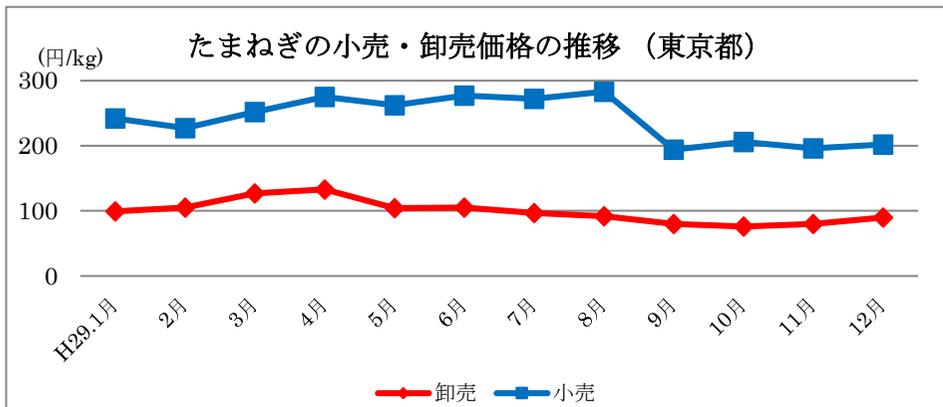
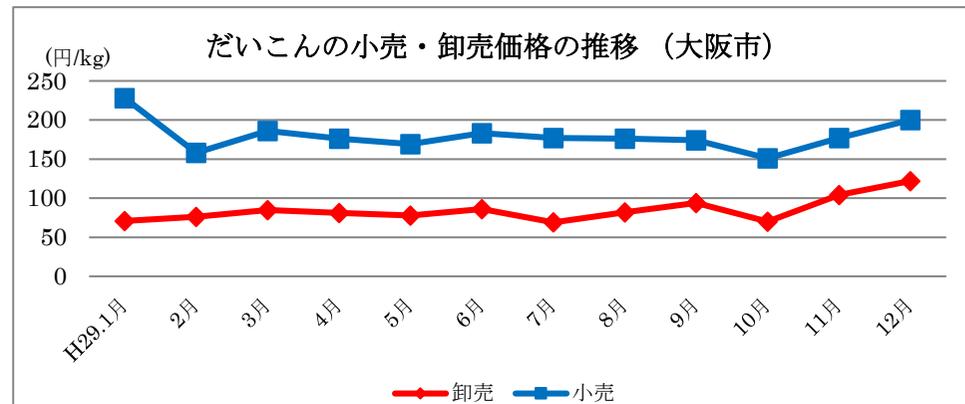
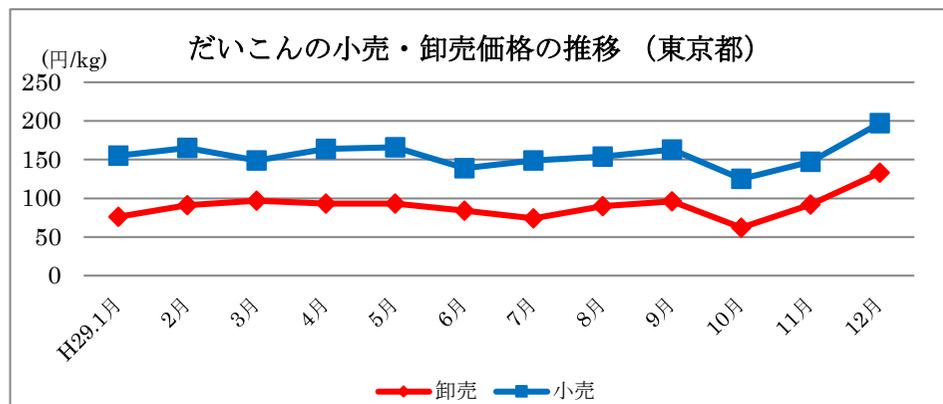
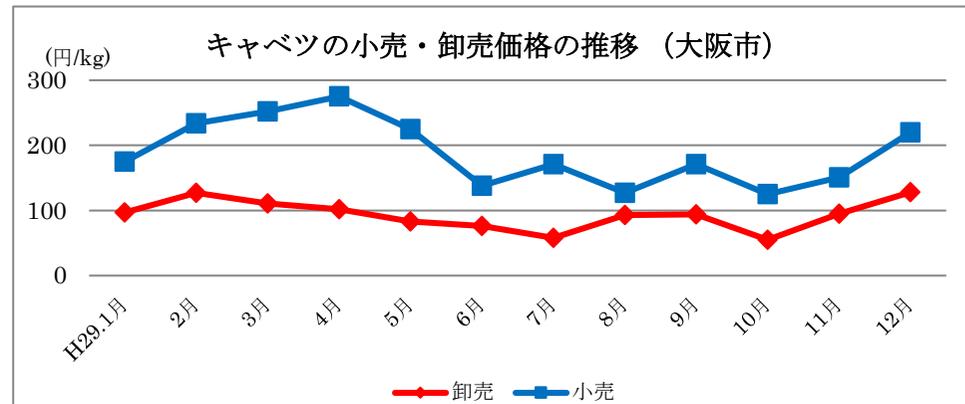
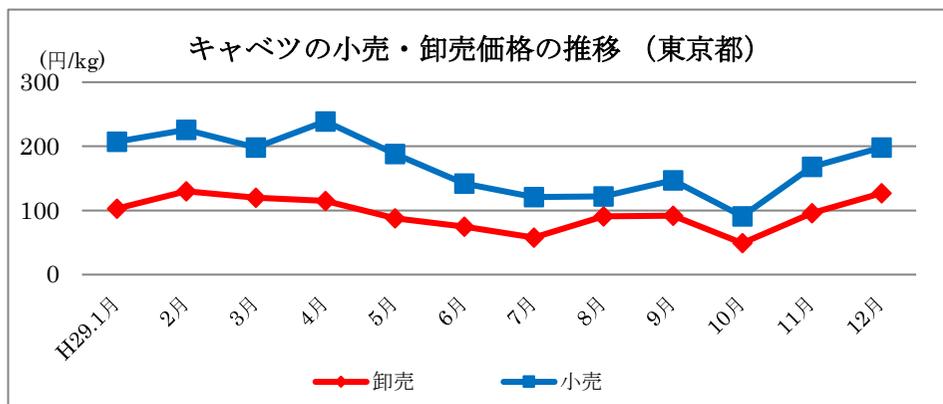
前年同月比の動向は、1月は前年秋の長雨・日照不足等の影響による相場高で前年を上回った。5月から7月にかけてはキャベツ等の相場安で前年を下回り、8月は東日本の太平洋側を中心に長雨が続いて販売額が低調となり前年を下回った。9月から11月はだいこん等が相場安で前年を下回り、12月は長雨・台風の影響により相場高となり前年を上回った。

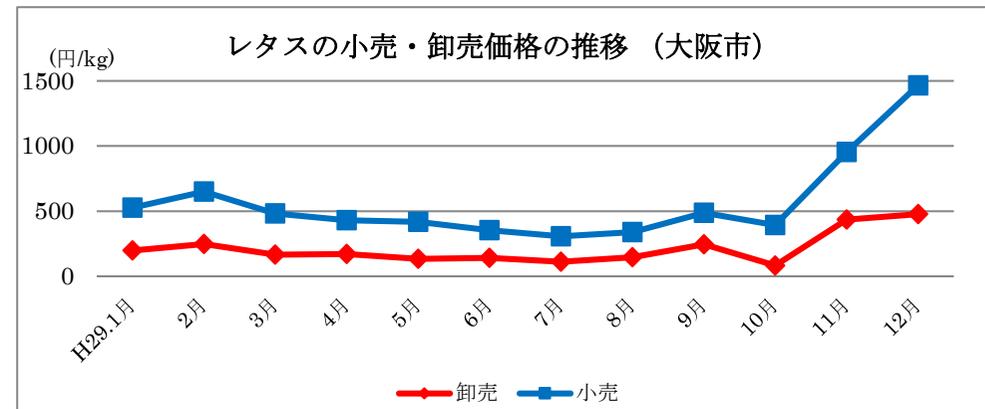
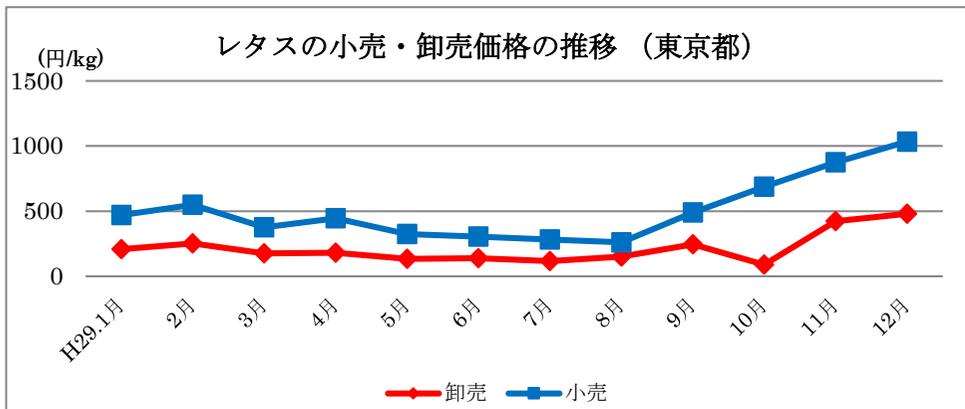
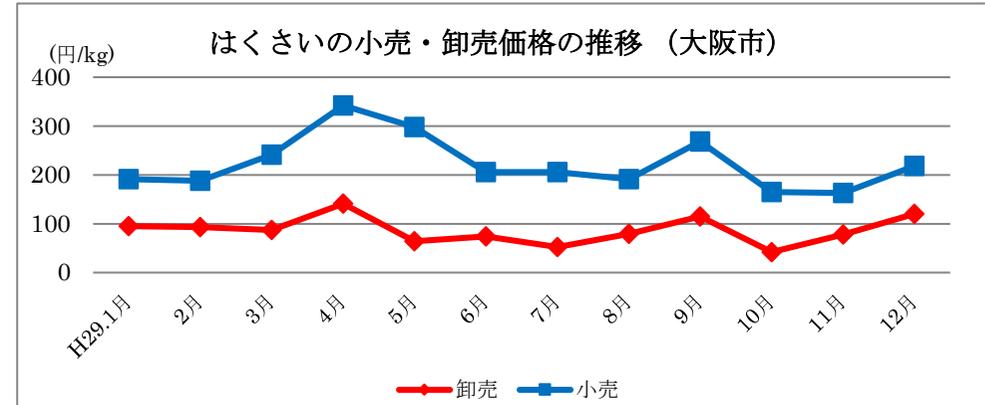
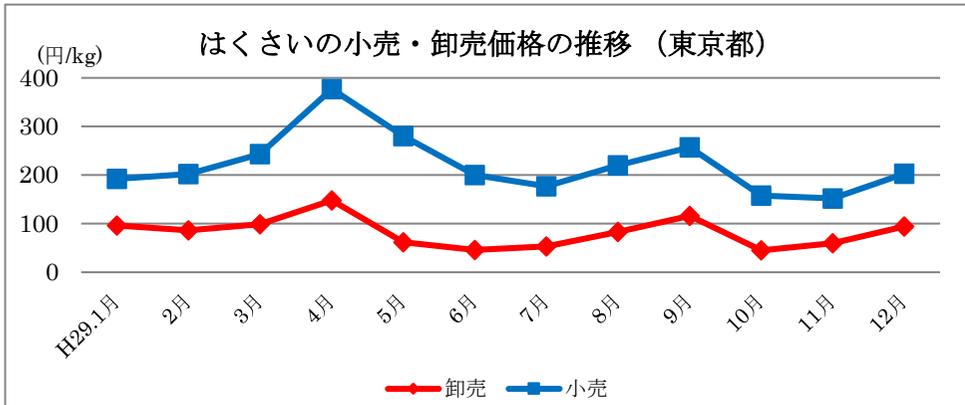
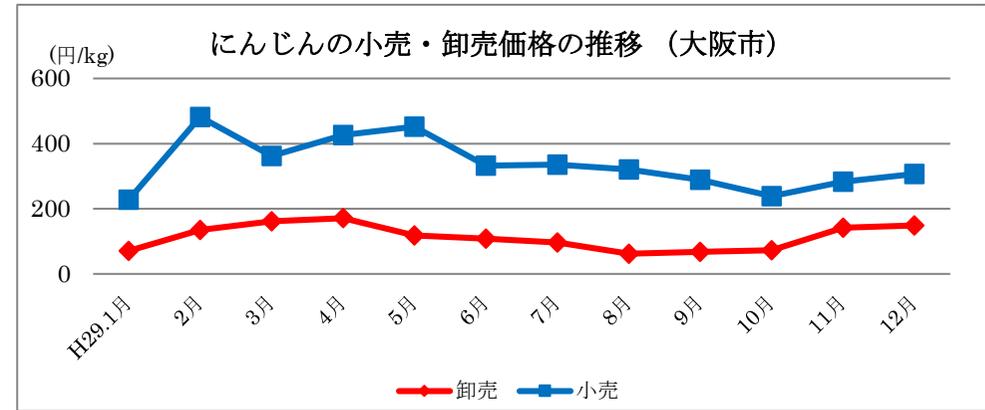
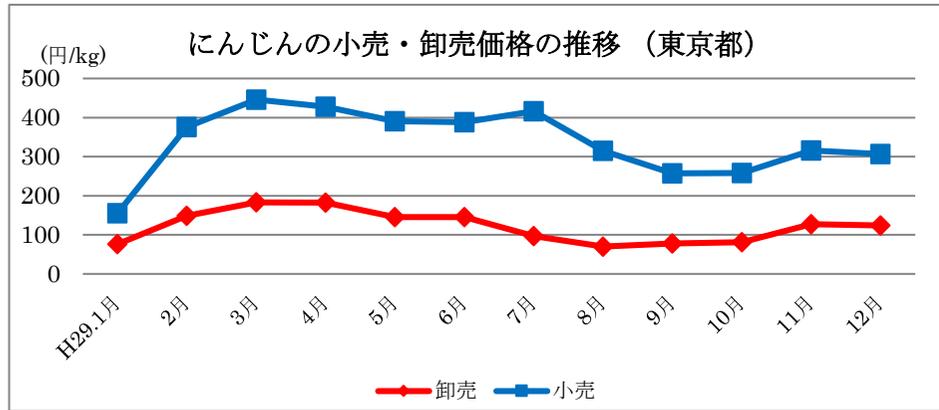
○ 惣菜の最高額は12月の1,037億円、最低額は2月の816億円であった。

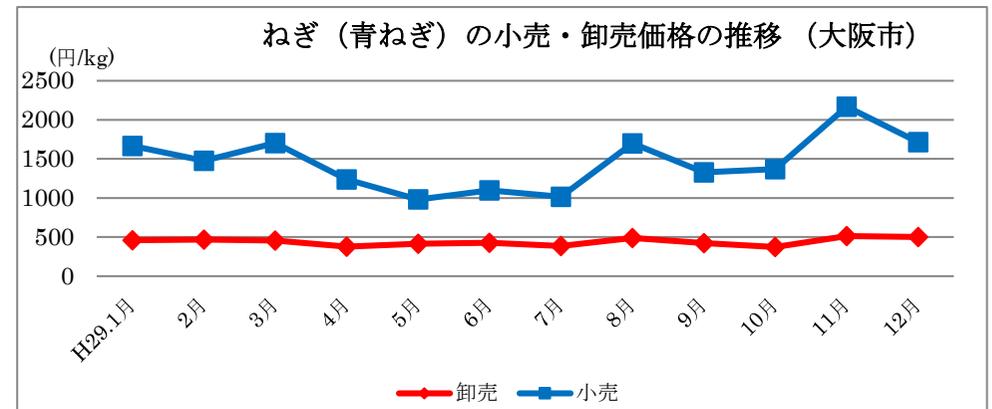
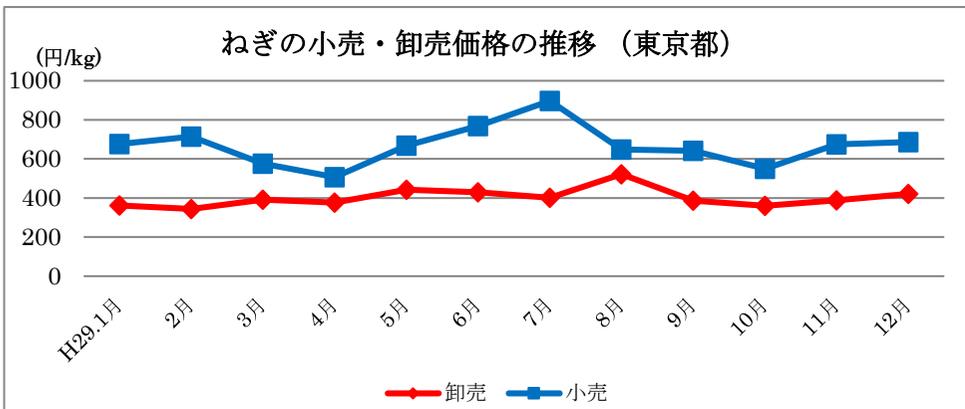
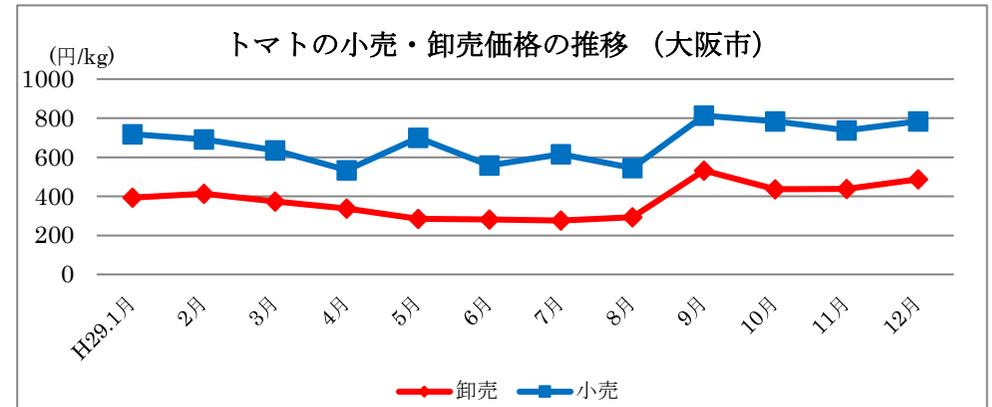
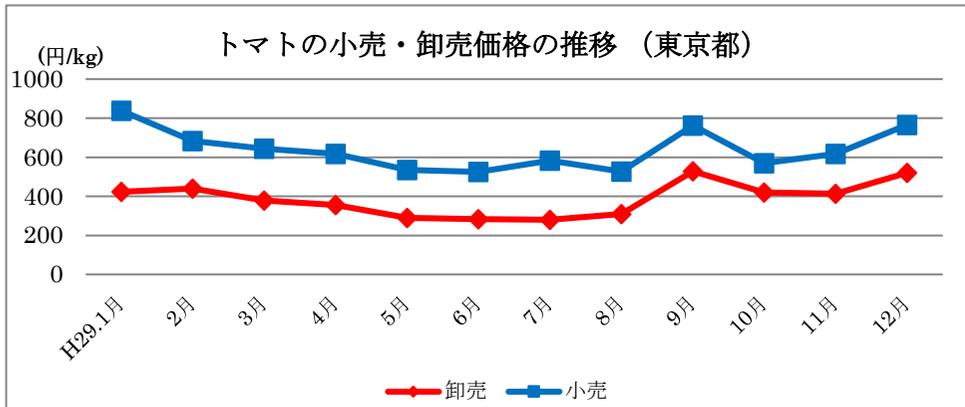
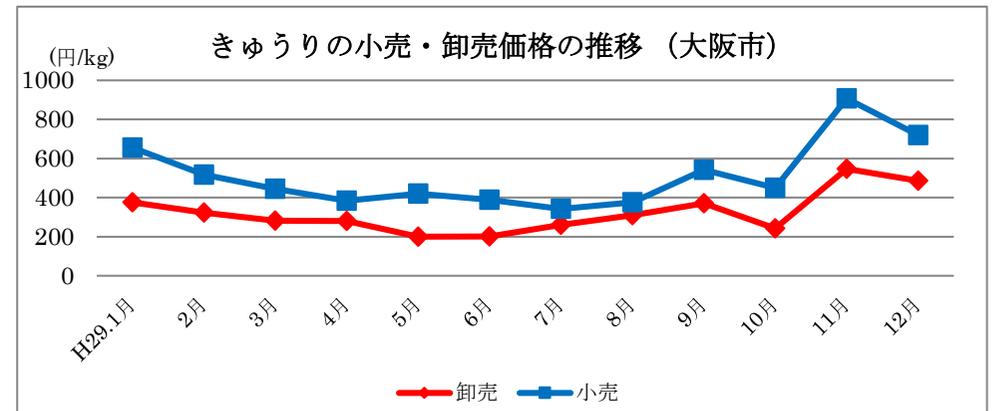
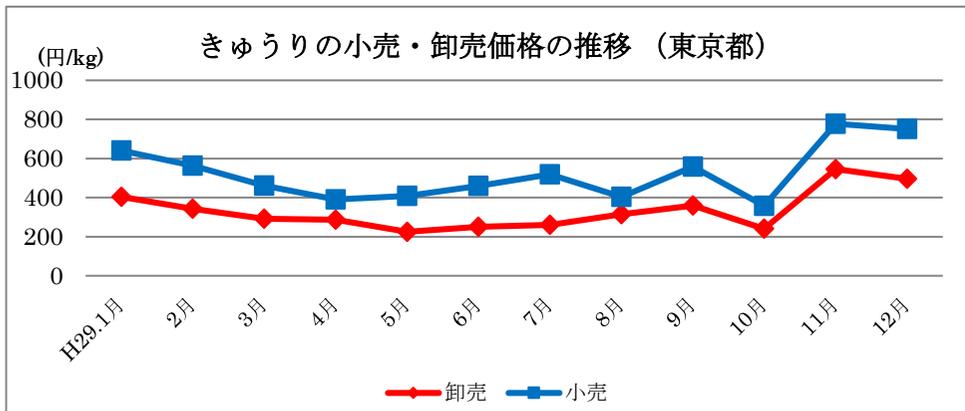
前年同月比の動向は、高齢化や個食化、時短ニーズの高まりを背景に消費者から支持され、2月、10月を除いて前年を上回った。2月は前年が閏年であり、10月は〇157の報道による影響を受け、それぞれ前年を下回った。



(3) 品目別小売・卸売価格





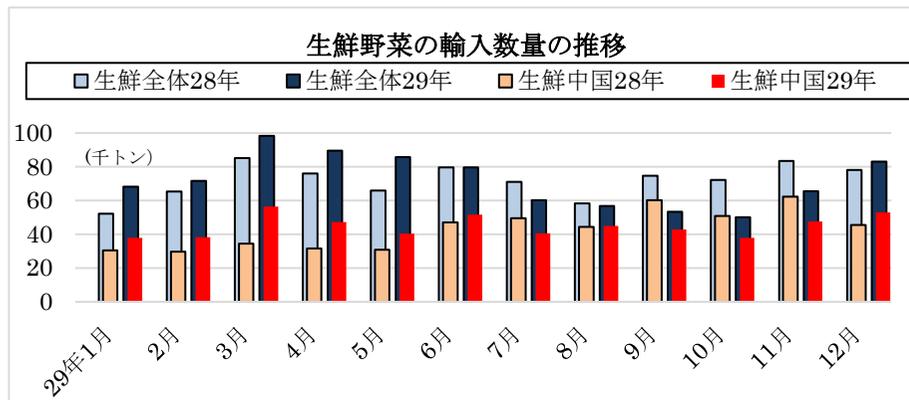
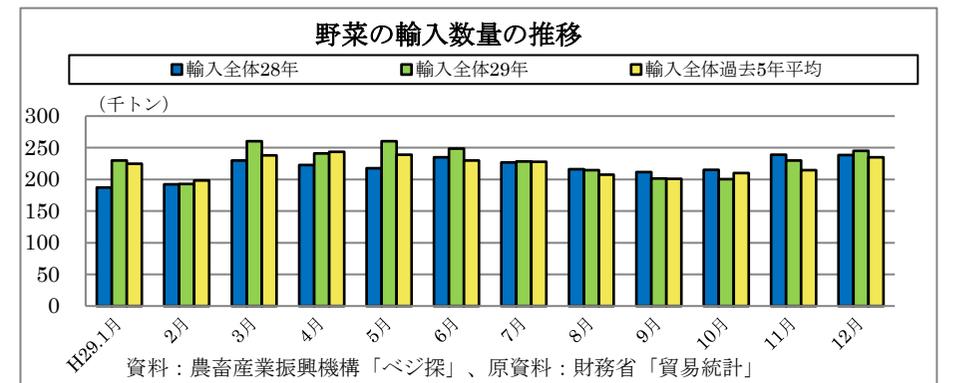
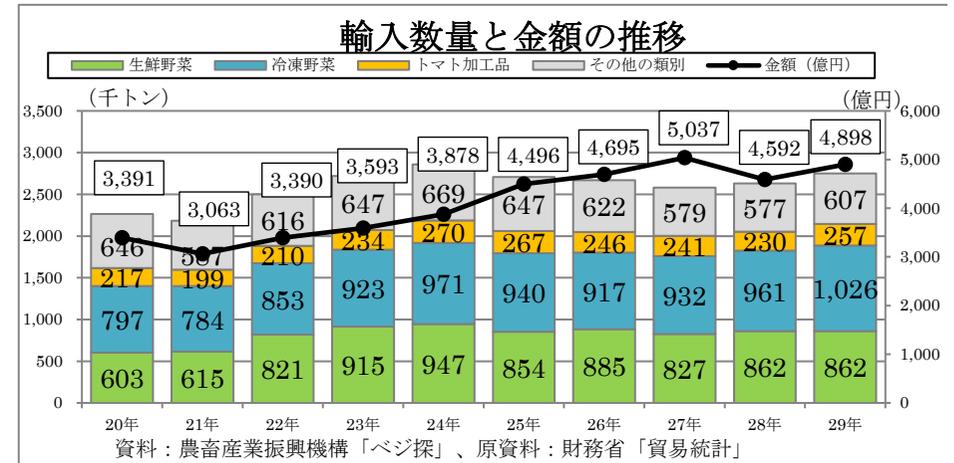


3. 輸入の動向

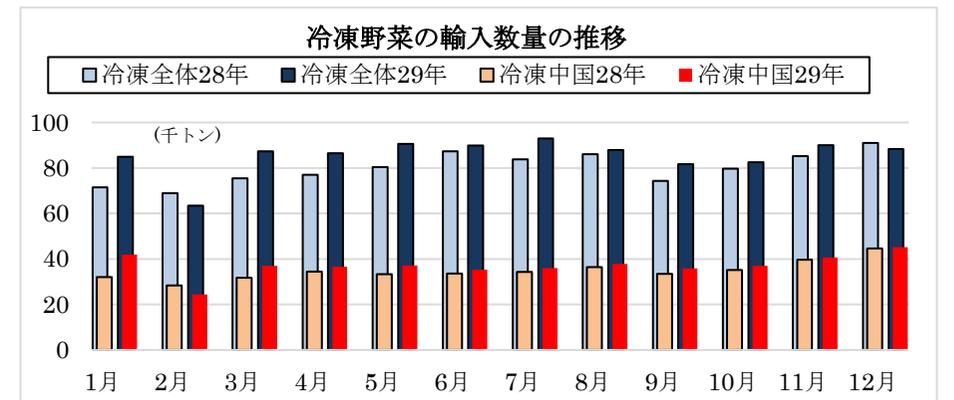
- 野菜の輸入数量と金額の推移を見ると、輸入数量については、平成29年は、10月の長雨・台風の影響等により国内産の出荷数量が減少したため、前年比5%増の2,752万トン（+121千トン）となった。

輸入金額については、輸入数量が増加したことに加え、平成28年に比べ、平成29年は円安傾向で輸入価格が上昇したことから、前年比7%増の4,898億円（+306億円）となった。

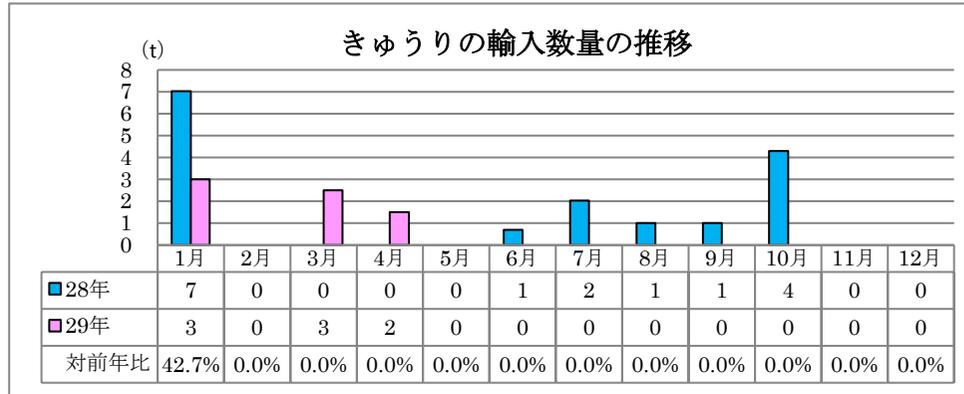
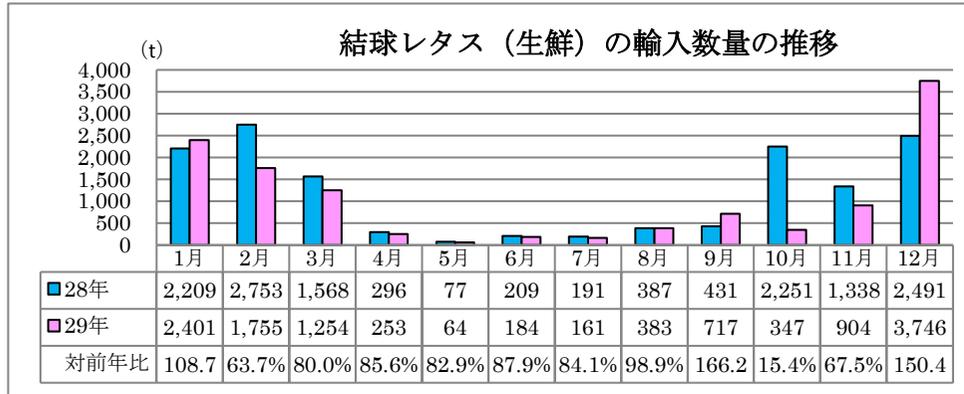
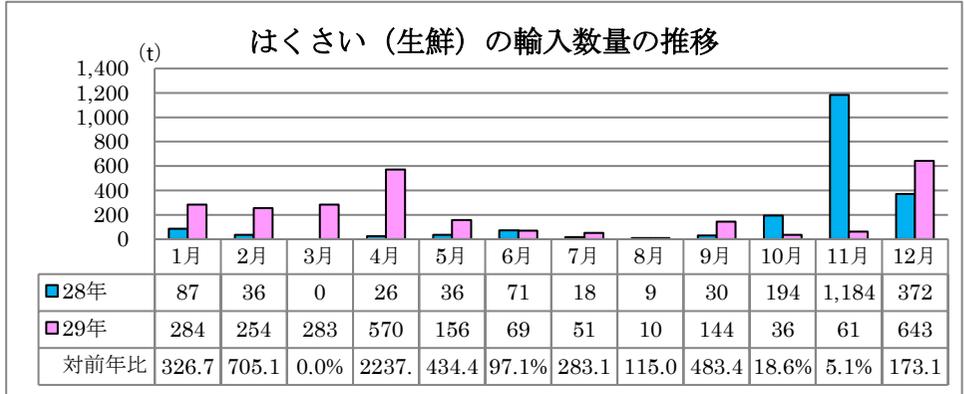
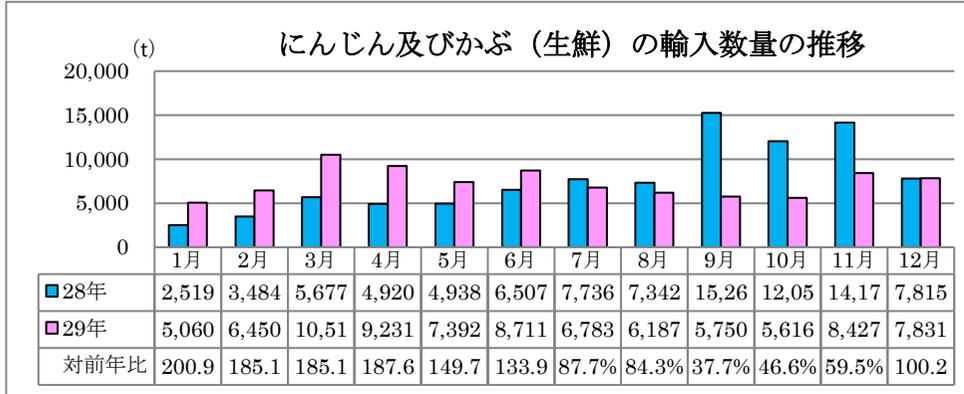
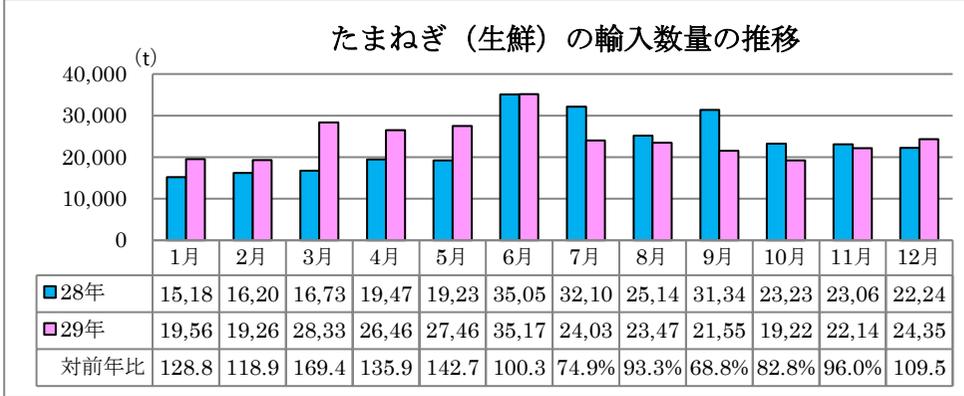
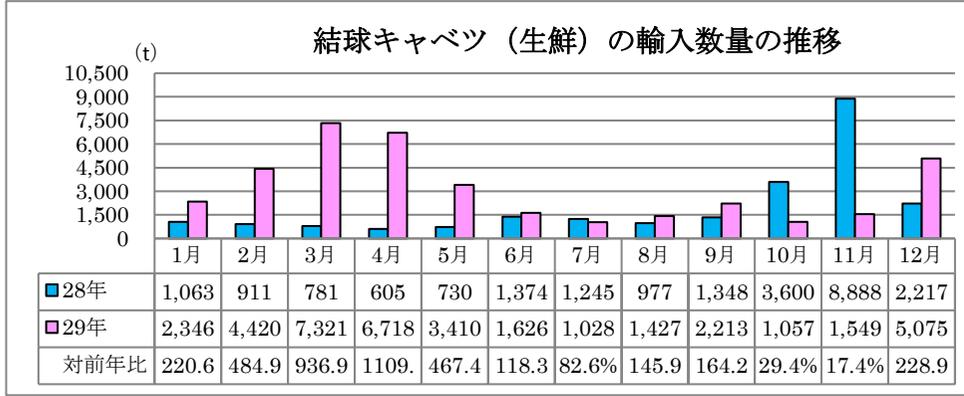
- 野菜の輸入数量の推移について見ると、1月から7月までは、前年9月の長雨・日照不足等により国内産の出荷数量が減少したことから前年を上回ったものの、8月から11月は前年を下回り、12月は10月の長雨・台風により出荷数量が減少したことから前年を上回った。
- 生鮮野菜の輸入数量の推移を見ると、1月から5月は前年の長雨・日照不足等によりにんじん等の出荷数量が減少して前年を上回った。6月から11月は、佐賀産たまねぎ及び北海道産にんじんの出荷が順調であったことから前年を下回った。12月は10月の長雨・台風により出荷数量が減少したことから前年を上回った。
- 冷凍野菜の輸入数量の推移を見ると、1月から11月（2月は除く）は、ファストフードを中心に冷凍ばれいしょ等に対する需要が堅調であることに加え、天候不順による出荷数量減で前年を上回った。12月はいちごの国内在庫の調整等があって前年を下回った。

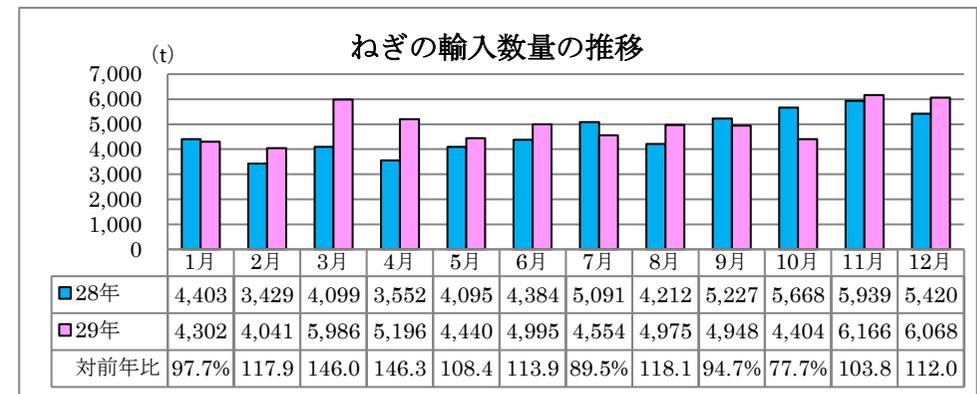
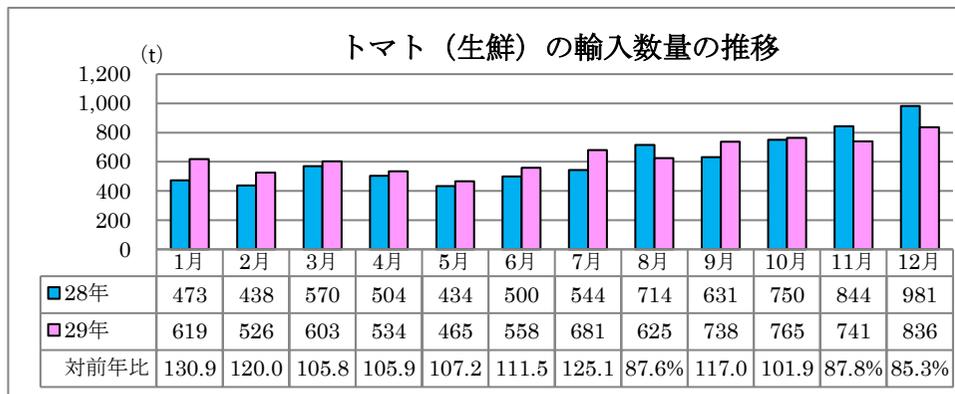


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：財務省「貿易統計」



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：財務省「貿易統計」





資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：財務省「貿易統計」

平成28年産春野菜主要品目の主産県別生産・出荷等

資料：農林水産省「作物統計(野菜)」
平成29年11月27日公表

○春キャベツ

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	9,000	4,080	366,800	328,800	100.0%
1	千 葉 県	1,290	4,640	59,900	54,400	16.5%
2	愛 知 県	1,250	4,590	57,400	54,100	16.5%
3	神 奈 川 県	960	5,040	48,400	46,300	14.1%
4	茨 城 県	902	5,200	46,900	44,000	13.4%
5	鹿 児 島 県	399	3,800	15,200	13,600	4.1%
6	兵 庫 県	345	3,300	11,400	10,100	3.1%
7	熊 本 県	301	3,480	10,500	9,700	3.0%
8	福 岡 県	297	3,610	10,700	9,920	3.0%
9	宮 崎 県	197	3,770	7,430	6,670	2.0%
10	埼 玉 県	152	3,830	5,820	4,130	1.3%

○春だいこん

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	4,590	4,750	218,000	194,500	100.0%
1	千 葉 県	1,130	5,640	63,700	57,600	29.6%
2	青 森 県	467	5,350	25,000	23,300	12.0%
3	鹿 児 島 県	321	4,460	14,300	13,000	6.7%
4	茨 城 県	300	4,500	13,500	11,500	5.9%
5	長 崎 県	259	7,030	18,200	17,000	8.7%
6	北 海 道	197	5,020	9,890	9,380	4.8%
7	愛 知 県	174	3,980	6,930	6,510	3.3%
8	熊 本 県	164	3,030	4,970	4,370	2.2%
9	埼 玉 県	156	4,780	7,460	5,920	3.0%
10	神 奈 川 県	105	4,750	4,990	4,490	2.3%

○たまねぎ

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	25,800	4,820	1,243,000	1,107,000	100.0%
1	北 海 道	14,300	5,900	843,700	783,000	70.7%
2	佐 賀 県	2,580	3,260	84,100	74,500	6.7%
3	兵 庫 県	1,720	5,060	87,000	78,000	7.0%
4	長 崎 県	823	3,000	24,700	22,300	2.0%
5	愛 知 県	609	5,230	31,900	28,300	2.6%
6	熊 本 県	329	3,170	10,400	8,770	0.8%
7	静 岡 県	311	3,800	11,800	10,600	1.0%
8	愛 媛 県	298	3,200	9,540	7,150	0.6%
9	群 馬 県	255	4,550	11,600	9,870	0.9%
10	新 潟 県	249	2,220	5,530	3,050	0.3%

○春夏にんじん

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	4,420	3,830	169,100	153,200	100.0%
1	徳 島 県	984	5,260	51,800	47,100	30.7%
2	千 葉 県	711	3,990	28,400	25,900	16.9%
3	青 森 県	626	3,740	23,400	21,600	14.1%
4	長 崎 県	300	3,530	10,600	9,960	6.5%
5	北 海 道	252	3,070	7,740	7,360	4.8%
6	熊 本 県	236	3,140	7,410	6,720	4.4%
7	茨 城 県	194	3,740	7,260	6,520	4.3%
8	埼 玉 県	190	3,350	6,370	5,730	3.7%
9	宮 崎 県	141	3,510	4,950	4,620	3.0%
10	岐 阜 県	69	4,640	3,180	2,960	1.9%

○春はくさい

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	1,860	6,110	113,600	103,800	100.0%
1	茨 城 県	636	7,480	47,600	45,700	44.0%
2	長 野 県	339	7,000	23,700	21,000	20.2%
3	長 崎 県	185	7,230	13,400	12,600	12.1%
4	熊 本 県	159	4,520	7,190	6,790	6.5%
5	鹿 児 島 県	68	3,670	2,490	2,010	1.9%
6	大 分 県	63	3,480	2,190	2,000	1.9%
7	岡 山 県	41	5,680	2,350	1,960	1.9%
8	北 海 道	40	5,560	2,230	1,990	1.9%
9	宮 崎 県	37	3,770	1,390	1,190	1.1%
10	愛 知 県	32	4,970	1,590	1,470	1.4%

○春レタス

順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	4,340	2,680	116,500	109,400	100.0%
1	茨 城 県	1,470	2,600	38,200	37,200	34.0%
2	長 野 県	541	3,740	20,200	19,200	17.6%
3	兵 庫 県	396	2,220	8,790	8,490	7.8%
4	福 岡 県	251	1,970	4,940	4,610	4.2%
5	長 崎 県	209	3,920	8,190	7,550	6.9%
6	香 川 県	151	2,180	3,290	3,040	2.8%
7	群 馬 県	134	3,640	4,880	4,560	4.2%
8	栃 木 県	83	2,500	2,080	2,000	1.8%
9	熊 本 県	83	2,850	2,370	2,190	2.0%
10	千 葉 県	82	2,080	1,700	1,520	1.4%

平成28年産春野菜主要品目の主産県別生産・出荷等

資料：農林水産省「作物統計(野菜)」
平成29年11月27日公表

○冬春きゅうり

順位	全 国 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	2,860	10,300	293,400	274,000	100.0%
1	宮 崎 県	584	9,670	56,500	53,800	19.6%
2	群 馬 県	304	11,100	33,700	30,900	11.3%
3	埼 玉 県	291	11,400	33,200	30,200	11.0%
4	千 葉 県	212	11,900	25,200	23,300	8.5%
5	茨 城 県	155	10,700	16,600	15,800	5.8%
6	高 知 県	137	16,200	22,200	21,300	7.8%
7	福 島 県	104	7,490	7,790	7,330	2.7%
8	神 奈 川 県	91	8,280	7,530	7,080	2.6%
9	熊 本 県	75	7,870	5,900	5,620	2.1%
10	宮 城 県	71	8,050	5,720	5,170	1.9%

○冬春トマト

順位	全 国 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	4,010	10,000	400,900	380,100	100.0%
1	熊 本 県	827	12,600	104,200	101,300	26.7%
2	愛 知 県	409	10,400	42,500	40,400	10.6%
3	千 葉 県	306	7,700	23,600	21,900	5.8%
4	栃 木 県	225	12,900	29,000	27,600	7.3%
5	宮 崎 県	173	9,340	16,200	15,300	4.0%
6	静 岡 県	153	7,190	11,000	10,500	2.8%
7	茨 城 県	143	9,020	12,900	12,300	3.2%
8	群 馬 県	138	9,130	12,600	11,500	3.0%
9	福 岡 県	132	13,000	17,200	16,200	4.3%
10	埼 玉 県	125	10,900	13,600	12,600	3.3%

○春ねぎ

順位	全 国 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	3,460	2,430	84,000	73,800	100.0%
1	千 葉 県	647	3,570	23,100	20,400	27.6%
2	茨 城 県	430	3,300	14,200	13,200	17.9%
3	埼 玉 県	180	3,620	6,520	5,350	7.2%
4	大 分 県	170	1,990	3,380	3,190	4.3%
5	福 岡 県	145	1,190	1,730	1,600	2.2%
6	鳥 取 県	131	2,130	2,790	2,580	3.5%
7	鹿 児 島 県	130	1,410	1,830	1,570	2.1%
8	群 馬 県	120	2,680	3,220	2,760	3.7%
9	静 岡 県	95	2,390	2,270	2,170	2.9%
10	高 知 県	95	1,170	1,110	1,040	1.4%

5. 今後の気象予報

1ヶ月（3月10日～4月9日）予報に見る確率

	平均気温（1週目）3/10～3/16	平均気温（2週目）3/17～23	平均気温（3～4週目）3/24～4/9
北日本	低 10% 並 20% 高 70% 高い 見込み	低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み
東日本	低 10% 並 10% 高 80% 高い 見込み	低 10% 並 20% 高 70% 高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み
西日本	低 10% 並 10% 高 80% 高い 見込み	低 10% 並 20% 高 70% 高い 見込み	低 30% 並 30% 高 40% 高い 見込み
沖縄・奄美	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並 の見込み

		平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
北日本	日本海側	低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	高い 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 50% 並 30% 多 20% 少ない 見込み
東日本	日本海側	低 10% 並 20% 高 70% 高い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	高い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
西日本	日本海側	低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	高い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
沖縄・奄美		低 20% 並 30% 高 50% 高い の見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み	少 20% 並 30% 多 50% 多い の見込み

注：「低 並 高」、「少 並 多」は、それぞれ平年との比較（以下同じ。）

出典：「全般1ヶ月予報解説資料」（平成30年3月8日発表 気象庁地球環境・海洋部）

◎3ヶ月（3月～5月）予報に見る確率

	平均気温 3月	平均気温 4月	平均気温 5月
北日本	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み
東日本	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 40% 並 30% 高 30% ほぼ平年並 の見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み
西日本	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 40% 並 30% 高 30% ほぼ平年並 の見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み
沖縄・奄美	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並 の見込み	低 40% 並 30% 高 30% ほぼ平年並 の見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み

		降水量 3月	降水量 4月	降水量 5月
北日本	日本海側	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	少 20% 並 30% 多 50% 多い 見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 の見込み
東日本	日本海側	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	少 20% 並 30% 多 50% 多い 見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
西日本	日本海側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	少 20% 並 30% 多 50% 多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
沖縄・奄美		少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み

出典：「全般3ヶ月予報（3月～5月）解説資料」（平成30年2月23日発表 気象庁地球環境・海洋部）